

電動昇降吊戸棚<収納棚> 取付・設置説明書

形 名

KEL-A090S35

この取付・設置説明書は必ずお客様にお渡してください。

■本説明書は電動昇降吊戸棚の取付と関連工事（建設工事）である大工工事、電気工事などを区分して説明しています。建設工事は関連する法令、規定に従って法的有資格者による工事が必要となります。

流通業者（販売店）を通じて電動昇降吊戸棚の取付を行う場合は、建設工事と区分して行ってください。

- 設置は、必ず二人以上で行ってください。
- 設置の前にこの説明書をよくお読みのうえ、正しく設置してください。
- 設置前に電気配線が必要です。あらかじめ行ってください。
- 電気配線は電気工事業者（法的有資格者）に依頼してください。
- レンジフードに隣接して取り付けられる機種ではありません。ご注意ください。
- この取付・設置説明書は必ずお客様にお渡してください。

も く じ

安全上のご注意	1～2
設置前の確認	3
1. 事前工事	3～4
2. 同梱部品の確認	5
3. 本体の取付け	6～9
4. 電気配線	10～11
5. 設置完了後の確認	11
6. 昇降棚の下降寸法を少なくする場合	12
7. リモコン(別売)の取付け	13～裏表紙
8. 外形寸法	裏表紙

安全上のご注意

●お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。つぎの内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みにになり、記載事項をお守りください。

■表示の説明



警告

“取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷^{*1}を負うことが想定されること”を示します。



注意

“取り扱いを誤った場合、使用者が傷害^{*2}を負うことが想定されるか、または物的損害^{*3}の発生が想定されること”を示します。

※ 1：重傷とは失明や、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

※ 2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

※ 3：物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

■図記号の説明



禁止

⊘は、禁止（してはいけないこと）を示します。

具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。



指示

●は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。

具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。



注意

△は、注意を示します。

具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で示します。

警告



専門業者

設置は専門業者に依頼する

ご自分で設置をされ、不備があった場合、感電や火災の原因となります。



よく読む

取付・設置説明書をよく読み正しく確実に設置する

不備があった場合、感電や火災・けがなどの原因となります。



ガス器具から15cm以上離す

ガス器具から15cm以上離して設置する

製品の熱変形や火災の原因になりますので充分注意してください。



強度確認

壁の強度と補強棧の位置を確認する

取付ける前に、壁の構造・補強棧の位置を確認してください。

十分な強度がないと、落下事故などの原因となります。



確実に固定

本体は壁に確実に固定する

取付けが不十分な場合、本体の落下の原因となります。

警告



確実に固定

ねじはゆるまないよう、最後まで確実に固定する
不十分だと本体のガタツキや故障の原因となります。



確実に固定

扉ヒンジは本体座金に確実に取り付ける
扉落下の原因となります。



専門業者へ依頼

電気配線は必ず電気工事業者（法的有資格者）に依頼する
不備があると、感電や火災の原因となります。



交流 100V で
専用回路を使用

電源は交流 100V で定格 15A 以上の専用回路を使用する
火災・感電の原因となります。



確実に接続

電源コードは確実に接続する
接続が不十分だと、異常発熱の原因となります。



禁止

電源コードを傷付けたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、
また、重い物を載せたり、挟み込んだりしない
電源コードが破損し火災・感電の原因となります。



アース

アース接地を必ず行う
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。
アースが不完全な場合は、感電の原因となります。



禁止

扉を無理に開けない
扉は昇降棚の下降動作と連動して開きますので、無理に開けますと故障の原因となります。



禁止

本体を壁に取付ける前に昇降操作をしない
本体に傷が付いたり、動作不良などの故障の原因になります。



禁止

本体と天井の間に幕板を取付ける場合は、本体と幕板をねじなどで固定しない
修理・交換ができなくなります。



禁止

取付金具に取付けてあるねじは、はずさない
本体の落下事故の原因となります。

注意



確実に引掛ける

本体が取付金具に確実に取付けられていることを確認する
引掛けが不十分だと落下の原因となります。



斜めに取付けない

本体が斜めになっていないか確認する
斜めになっていると、本体に傷がついたり動作不良などの故障の原因となります。



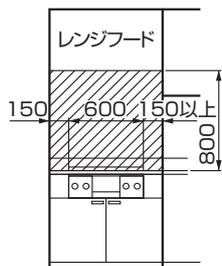
確実に取付

扉取付後は、がたつきがないこと、ヒンジ部が確実に取付けられていることを必ず確認する
扉が落下して、けがの原因となります。

■本製品のホルムアルデヒド発散区分

表示内容	
商品名	電動昇降吊戸棚
製造企業名	金澤工業株式会社
ホルムアルデヒド発散区分	内装仕上げ部分及び下地部分とも F☆☆☆☆
表示ルール	「住宅部品表示ガイドライン」に基づく
製造年月日	キャビネット底部に貼付けの銘板よりご確認ください。
ホルムアルデヒド発散材料 区分詳細	PB F☆☆☆☆ MD F☆☆☆☆ 接着剤 F☆☆☆☆
問い合わせ先	品質管理課 0280-92-3033

設置前の確認

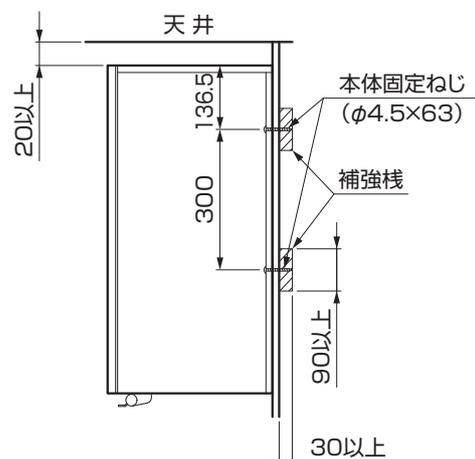
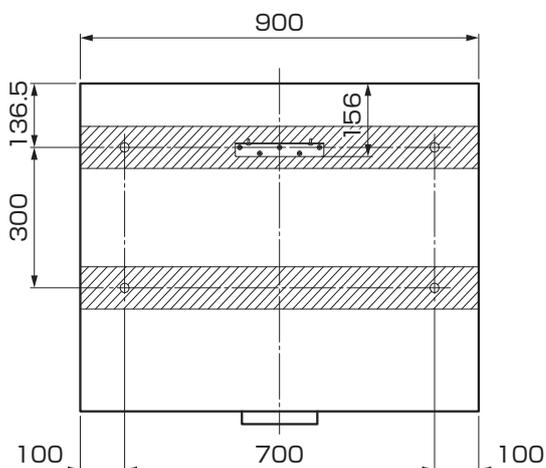


- 火災予防条例（東京都）では、左図の斜線内に可燃物があるてはならないと規定されています。斜線内には設置しないでください。なお、これ以上に規制されている地域もありますので、地域の条例に従ってください。
- 昇降部分の下に物が設置されないことを確認してください。
- 下部に加熱機器（ガス、電気器具等）が設置されない場所であることを確認してください。

1. 事前工事

大工工事（補強棧取付け）

（単位：mm）



警告

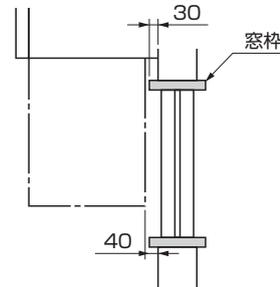


補強棧の取り付けは関連する法令にしたがって「有資格者」が行う

- 補強棧の取付は大工工事業者へ依頼してください。
- 庫内に収納物を入れると、総質量は約 70kg となります。
- 補強棧の位置および強度を確認し、不具合があれば修正してください。

■窓枠について

- サッシ等の窓枠の突出寸法は 30mm 以下にしてください。昇降棚を下降させたときに、当たる恐れがあります。



電気工事

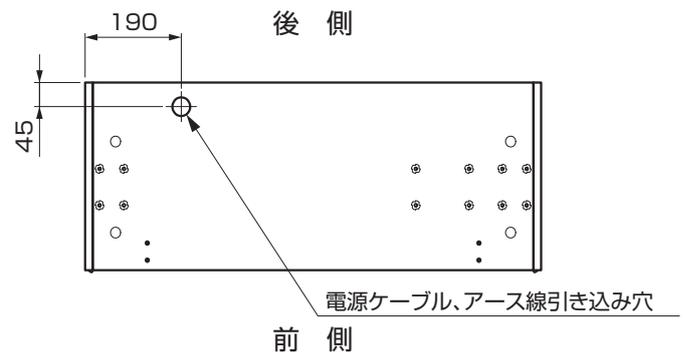
■電源ケーブル、アース線取り出し位置

- 天井面の左記の位置に取り出し口を設け、電源ケーブルおよびアース線を引き出します。

警告



電気工事は関連する法令にしたがって「有資格者」が行う



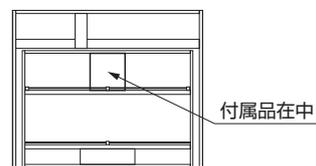
■接地

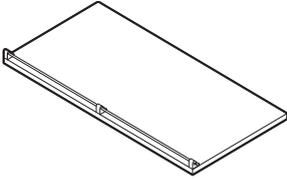
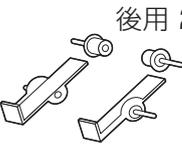
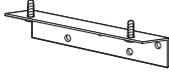
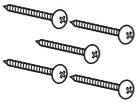
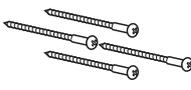
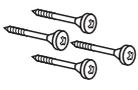
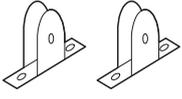
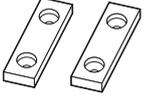
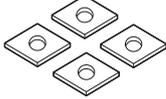
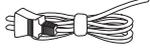
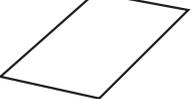
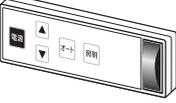
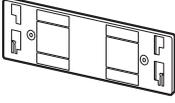
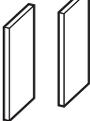
- 漏電による感電事故を防止するために、必ずアースを設けてください。
- アースは、電気工事業者（法的有資格者）に依頼してください。
- アースは他の電気器具と共用したり、ガス管、水道管への接続は危険ですので絶対におやめください。
- 接地終了後は必ず接地抵抗を確認してください。

■漏電遮断器の設置

- 万一のときの安全のために、漏電しゃ断器の設置をおすすめします。
- 接地および漏電しゃ断器の設置は、電気工事業者（法的有資格者）に依頼してください。

2. 同梱部品の確認



ご使用時に必要な付属品				
上 棚  1 個	棚支えダボ  後用 2 個 前左用 1 個 前右用 1 個	取扱説明書  1 冊	保証書  1 枚	
取付け時に必要な付属品				
取付金具  1 個	取付金具取付ねじ  $\phi 5 \times 50\text{mm}$ 5 本	本体固定ねじ・ワッシャ  $\phi 4.5 \times 63\text{mm}$ 4 本 4 枚	連結ねじ・化粧キャップ  $\phi 4 \times 28\text{mm}$ 4 本 4 個	
扉取付金具  2 個	リンク当て板  2 個	扉取付金具・リンク当て板取付けねじ  $\phi 4 \times 12\text{mm}$ 8 本	大形角ワッシャ  4 枚	
仮設コード  1 本	電気工事ご担当様へ  1 枚	取付・設置説明書  1 冊		
リモコン (KEL-ASR) 別売				
リモコン  1 個	ホルダー  1 個	単四アルカリ乾電池  2 本	ホルダー取付ねじ  $\phi 3 \times 10\text{mm}$ 2 本	ホルダー取付両面テープ  2 枚

3. 本体の取付け

(単位：mm)

- 補強棧の位置、強度は十分かどうか確認してください。
- 電源ケーブル、アース線の取出口は指定の位置にあるか確認してください。

1. 取付金具の取付

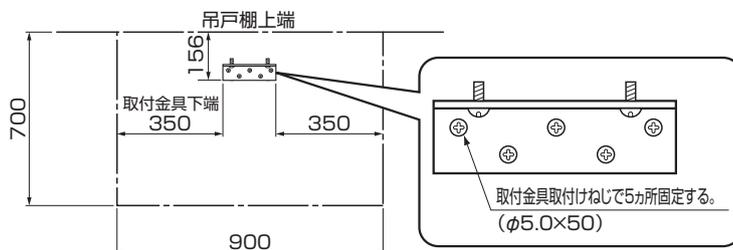
⚠注意



取付金具は水平に取付ける

水平に
取付ける

水平になっていないと本体が斜めになります。



- 付属の取付金具取付ねじで、取付金具を壁面に固定します。

2. 本体の取付

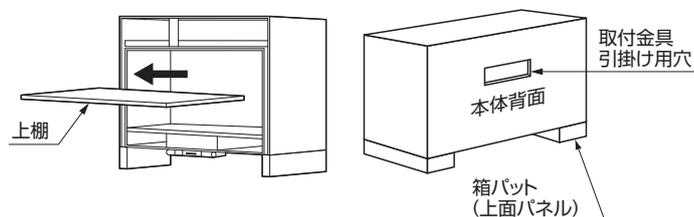
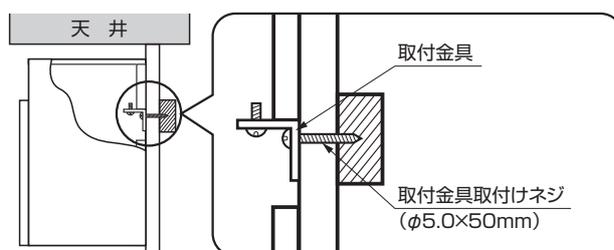
⚠注意



本体が取付金具に確実に取付けられていることを確認する

確実に
引掛ける

引掛けが不十分だと落下の原因となります。



- 昇降棚より上棚を外す。
- 取付金具への取付け
本体を取付金具に確実に引掛けます。

3. 仮配線

- 付属の仮設コードを端子台に被覆部まで確実に差し込みます。
- 仮設コードのプラグをコンセント (AC100V) に接続します。

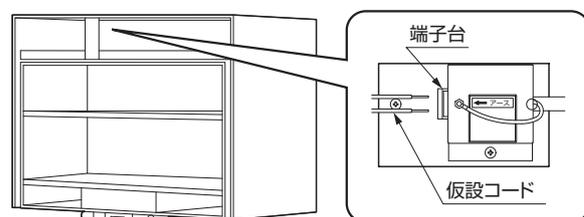
⚠注意



仮設コードを強く引っ張らない

禁止

端子台から抜ける恐れがあります。



4. 昇降動作の確認

⚠️ 注意



昇降動作を行うときは、必ず壁に吊下げてから行う

水平に取付ける

故障の原因となります。

- 箱パッドがはずれているか確認します。
- 操作部の電源スイッチを一回押し電源を入れます。
- 昇降レバーを下げて昇降棚の下降を確認します。
下端まで下降すると、自動的に停止します。
また、レバーから手を離すと下降を停止します。
- 昇降レバーを上げて昇降棚の上昇を確認します。
上端まで上昇すると、自動的に停止します。
また、レバーから手を離すと上昇を停止します。

5. 本体の固定

1. 背面固定

- 本体を付属のねじ（ $\phi 4.5 \times 63\text{mm}$ 、ワッシャ付）で壁に固定します。ねじは壁に密着するまで確実に固定してください。
※必ず4ヵ所固定してください。
- 垂れ壁等、壁強度が弱い場合は背面固定と天吊固定の併用で取付けてください。
- 設置壁面のうねり・ひずみは3mm以内にしてください。
- 本体の傾きは3mm以内にしてください。
※昇降棚と本体キャビネットが擦れ、故障する原因になります。

2. 天吊固定

- 垂れ壁等で壁強度が弱い場合、背面固定と天吊固定の併用で取付けてください。
- 天井よりM10のボルト4本を本体天面の挿入穴位置に合わせて取付けてください。
- M10ボルト挿入後、付属の大型角ワッシャを通してナットで固定してください。
※ボルト、ナットは同梱されておりませんので現場に合わせて必要なものを準備してください。

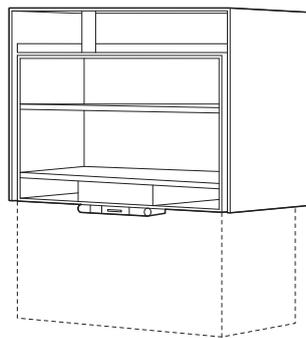
⚠️ 注意



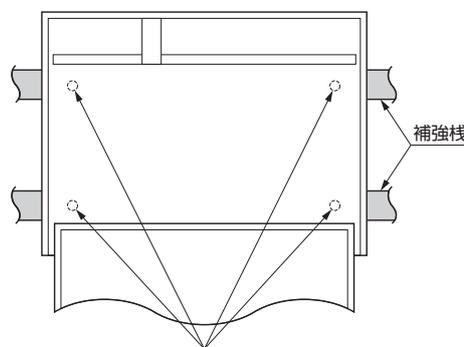
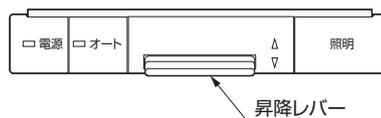
天吊のみの固定はしない

禁止

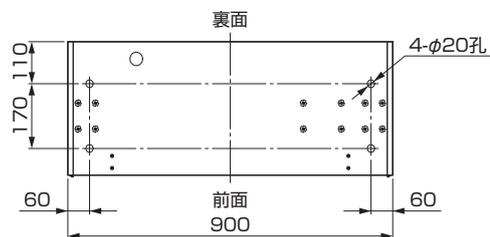
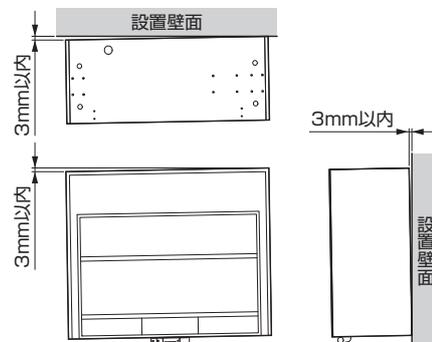
故障、落下の原因となります。



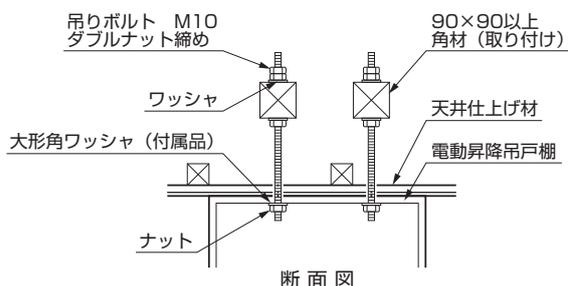
操作部



付属のねじで4ヵ所壁面に固定する。



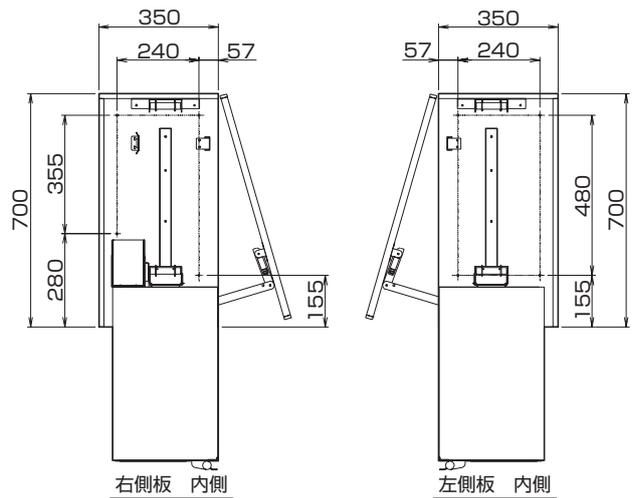
天面から見たボルト挿入穴位置



断面図

6. 本体の連結

- 隣接する吊戸棚およびサイドパネルとの連結
隣接する吊戸棚との間に隙間または段差が生じたときには、付属の連結ねじ（化粧キャップ付）で調整して連結してください。
※電動昇降吊戸棚本体内側から右図の位置より連結ねじで固定します。



⚠注意



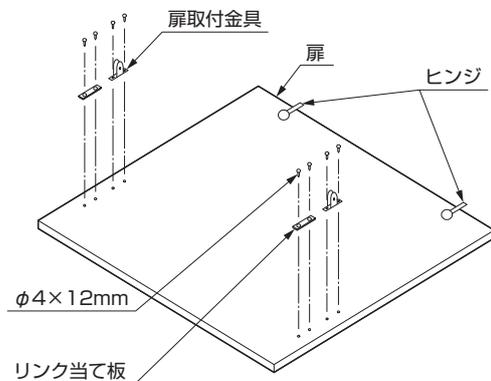
連結の際キャビネット各部を歪ませない

歪ませない

故障の原因となります。

7. 扉組立

- 扉は同梱されていません。（現地調達部品）
- 付属の「扉取付金具」と「リンク当て板」を扉に付属のφ4×12mmのねじで取付けます。
- ねじを締付けるのはドライバーにて手締めで行ってください。
インパクトドライバー等を使用しますとねじが空回りして効かなくなることがあります。



⚠注意



ヒンジが扉に確実に取付けられていることを確認する

確実に取付ける

取付けが不十分だと扉落下の原因となります。

8. 扉組立を本体に取付け

- ヒンジを座金に取付けます。
※ヒンジ後部のレバーを下げると外れます。

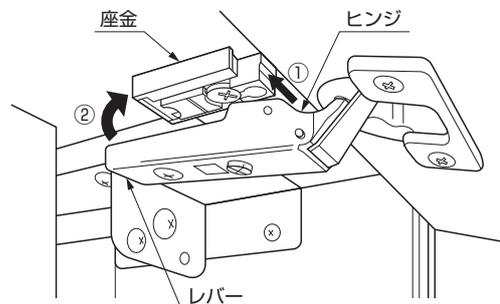
⚠注意



ヒンジを座金に確実に取付ける

確実に取付ける

取付けが不十分だと扉落下の原因となります。



9. リンクの取付け

- リンクを扉取付金具に差し込み、リンクに取付けてありますホルダーをスライドさせて取付けます。

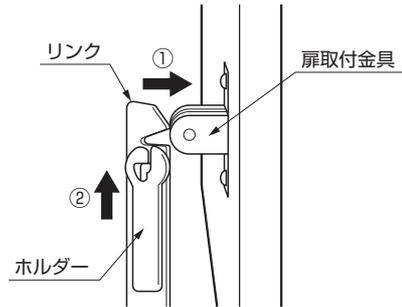
⚠️ 注意



ホルダーが確実に取付けてあることを確認する

確実に取付ける

取付けが不十分だと故障の原因となります。



10. 扉の調整

- 調整は左右のヒンジ均等に行う。

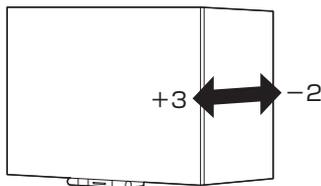
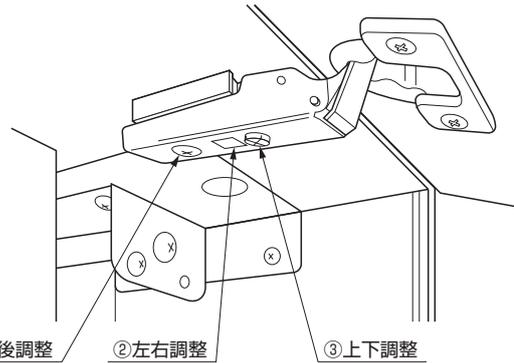
⚠️ 注意



ねじを緩めすぎない

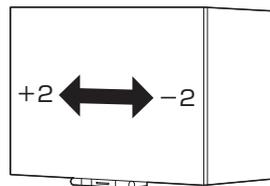
緩めすぎない

脱落の原因になります。



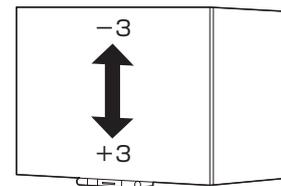
①前後調整

ねじを緩め前後調整後
締めます。



②左右調整

右にまわすと「+」、
左にまわすと「-」
方向に調整できます。



③上下調整

右にまわすと「-」、
左にまわすと「+」
方向に調整できます。

11. 仮説コード収納

- 仮設コードをコンセントから抜きます。
- 仮設コードを束ねます。
- 扉を軽く手前に引くと開きますので、下の棚に仮設コードを入れてください。

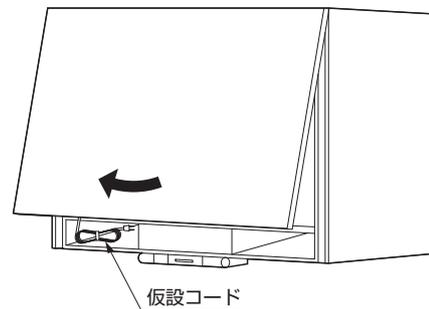
⚠️ 注意



扉を強く開けない

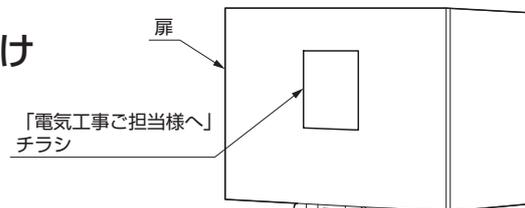
禁止

故障の原因となります。



12. 「電気工事ご担当様へ」チラシ貼り付け

- 「電気工事ご担当様へ」チラシを扉に貼り付けてください。



4. 電気配線

警告



電気工事は関連する法令にしたがって「有資格者」が行う

- 扉を軽く手前に引くと開きますので仮設コードを取り出し、コンセントに差し込みます。
- 3. 本体の取付け「11. 仮設コード収納」を参照
- 電源スイッチをONして昇降レバーを下げますと、昇降棚が下降して下端で自動的に停止します。
- 扉からリンクを外し、扉を開きます。3. 本体の取付け「9. リンクの取付け」参照

1. 仮設コードを外す

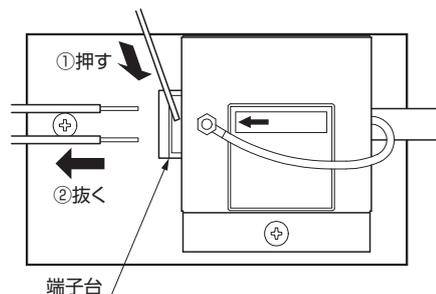
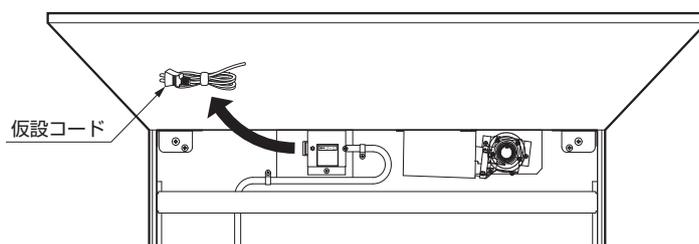
- 元電源（室内ブレーカー）をOFFしてから端子台より仮設コードを外します。
- 仮設コードは破棄してください。

注意



禁止

仮設コードで本配線をしない
異常発熱により火災の原因となります。



2. 電源コード、アース線の接続

- 電源コード、アース線を本体内に引込みます。

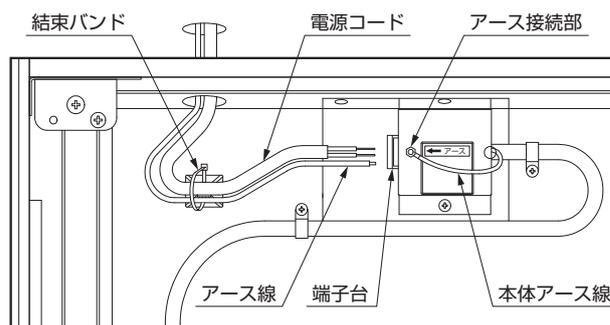
注意



禁止

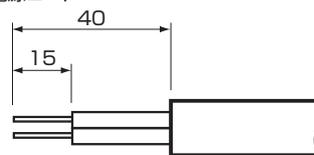
電源コードやアース線が昇降ベルトと金属部品の端面に触れない

コードが傷付き火災や感電の原因となります。



<皮むき寸法>

- 電源コード



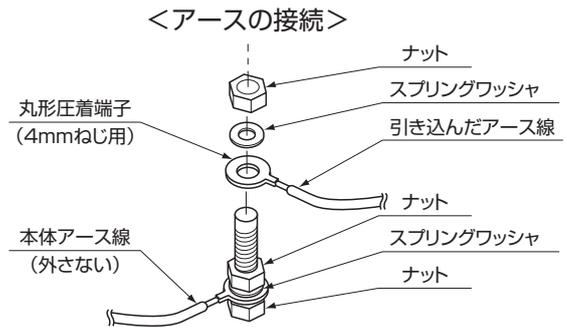
- アース線



- 電源コード、アース線が長い場合はカットしてください。
- 電源コード、アース線は結束バンドの輪の中を通してください。
- 電源コードはVVFケーブル（φ1.6またはφ2.0）を使用し、被覆部まで確実に差し込んでください。接続後、コードを引っ張って接続が確実かどうか確認してください。

2. 電源コード、アース線の接続（つづき）

- アース線は先端に4mmねじ用の丸形圧着端子をつけ、緩まないようナットで確実に締め付けてください。
- 電源コード、アース線の配線が終わりましたら結束バンドを締め付けて、固定してください。
※結束バンドの固定は水漏れによる漏電と抜け防止のためですので必ず行ってください。



3. 扉にリンクを取付け

- 扉にリンクを取付けます。

3. 本体の取付け「9. リンクの取付け」参照

4. 元電源を入れる

- 元電源（室内ブレーカー）を ON します。

5. 扉を閉める

- 電源スイッチを ON して昇降レバーを上げますと昇降棚が上昇し扉が閉まります。

5. 設置完了後の確認

- 元電源（室内ブレーカー）が ON になっていることを確認してください。

1. 取付け状態の確認

- 製品取付けにグラツキのないことを確認する。
- ヒンジが扉、座金にガタツキがなく取付けてあるか確認する。
- 扉の傾き、浮きがないことを確認する。
- 扉に扉取付金具、リンク当て板が取付けてあることを確認する。

- リンクが扉取付金具に確実に接続されていることを確認する。
- 電源コード、アース線が昇降ベルト、金属部品の端面に触れてないか確認する。
- 電源コード、アース線が結束バンドで固定されていることを確認する。

2. 昇降動作の確認

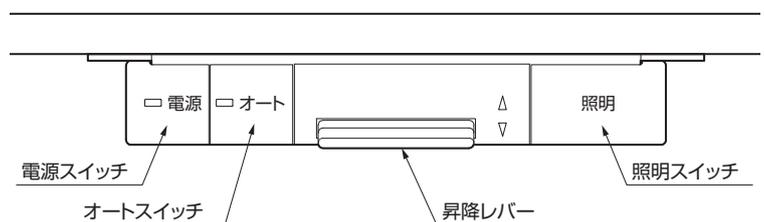
- 電源スイッチを ON します。

■下降動作の確認

- ①昇降レバーを下げると、昇降棚が下降する。
- ②レバーから手を離すと停止する。
- ③下端まで下降すると自動的に停止する。
- ④下降動作と連動して扉が開く。

■上昇動作の確認

- ①昇降レバーを上げると、昇降棚が上昇する。
- ②レバーから手を離すと停止する。
- ③オートスイッチを 1 回押す。
- ④昇降レバーを上げ、レバーから手を離す。
- ⑤上端まで上昇すると自動的に停止する。
- ⑥上昇動作と連動して扉が閉まる。



■照明の確認

- ①照明スイッチを ON してランプが点灯するか確認する。
(照明スイッチは電源スイッチが OFF 状態でも動作します。)

6. 昇降棚の下降寸法を少なくする場合

(通常の設置では必要ありません)

●本製品は最大下降寸法が400mmとなっておりますが、電動昇降吊戸棚の下側に水道の蛇口等があり十分な寸法が確保できない場合は下記作業を行うことにより、最大300mmまで（2段階）下降寸法を少なくすることが出来ます。

※但し、昇降棚に連動して扉が開閉する為、扉が標準寸法まで開かず収納物の出し入れがしにくくなる場合があります。

※変更に必要なスイッチアクチュエーターとねじ（セット）は取寄せ（有料）となります。

①昇降棚の下面側に約500mmのスペースを確保してください。

※下側に蛇口等がすでに設置されている場合は必ずはずしてから行ってください。

②電動昇降吊戸棚の昇降棚を最大下降させます。

③元電源（室内ブレーカー）をOFFにしてリンクを外し、扉を開けます。

3. 本体の取付け「9. リンクの取付け」参照

④リミットスイッチガードを外します。

ねじを外してください。

⑤スイッチアクチュエーター（別売品）を取付けねじ2本で確実に取付けます。

取付け位置は昇降棚右上側にあります（左図参照）、取付け位置はA、またはBの2箇所選定できます。

取付け位置	昇降棚下降寸法
A	約 300mm
B	約 335mm

※スイッチアクチュエーターの変形、及びガタツキに十分注意してください。誤動作、故障の原因になります。

⑥昇降用モーターを手廻しドライバーで右側に回転させ、昇降棚を上昇させます。

（目安：昇降棚を約 10cm 上昇させてください。）

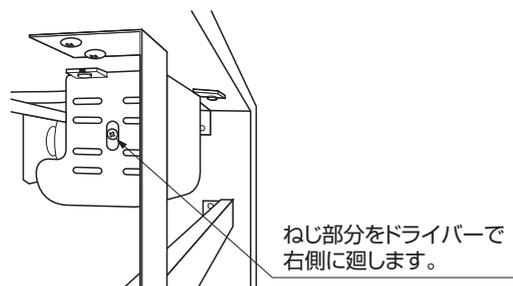
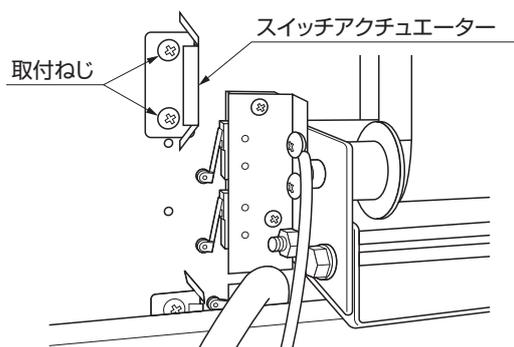
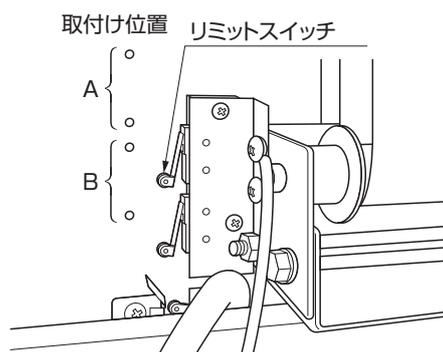
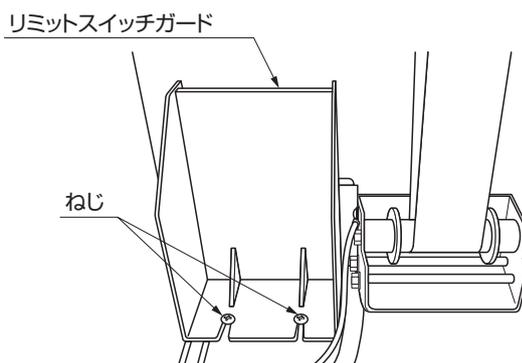
※上昇が不足してますと異常検知して動作しない場合があります。

⑦リミットスイッチガードを取付けます。

⑧扉を取付けます。

3. 本体の取付け「9. リンクの取付け」参照

⑨元電源（室内ブレーカー）をONにし昇降動作の確認を行ってください。

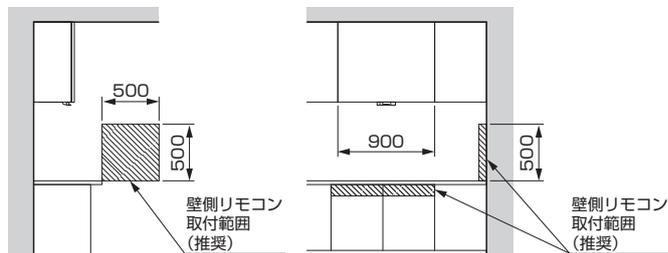


7. リモコン(別売)の取付け

●リモコンを購入してください。 形名：KEL-ASR

1. リモコン、ホルダーの取付け範囲

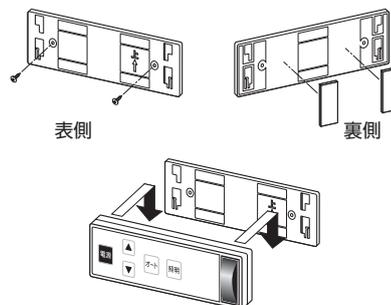
●リモコン、ホルダーは電動昇降吊戸棚が無理なく操作できる位置に取付けてください。



2. ホルダーの取付け方

ホルダーの取付けはねじ止めと両面テープの2種類の方式がありますので、その場の状況に応じてお客様とご相談の上、取付けを行ってください。※ホルダーの取付方向は、表側に刻印されています。

- ねじ止めはホルダー表側より締付けて固定します。
- 両面テープはホルダー裏側の平らな面に貼り固定します。
- リモコンをホルダーに取付けます。
リモコン裏側の爪部をホルダーに差込み、リモコンを下げると取付けることができます。

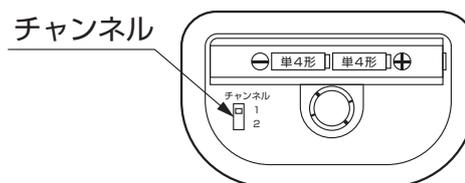


3. リモコン動作の確認

- リモコン裏側の電池蓋をはずして付属の単四アルカリ乾電池を入れ動作を確認します。
- 単四アルカリ乾電池の入れかたは取扱説明書の「リモコンの使いかた」を参照してください。
- 動作の確認は取扱説明書の「リモコンの使いかた」を参照してください。
- 引渡しまでの期間が長い場合は、動作確認後、リモコンから単四アルカリ乾電池を抜き、取扱説明書とともにお客様にお渡しください。

4. 2台設置する場合(リモコンと制御基盤の両方を切り替えます)

- チャンネルを切り替えます。
チャンネル「1」に切り替える例とします。
チャンネルを切り替えないと2台同時に動作します。
- チャンネルの切替え<リモコン>
- 片方のリモコンの電池蓋を開けてチャンネルを切替えます。電池蓋の開けかたは取扱説明書の「リモコンの使いかた」を参照してください。



図はチャンネル「1」

■チャンネルの切替え<制御基板>

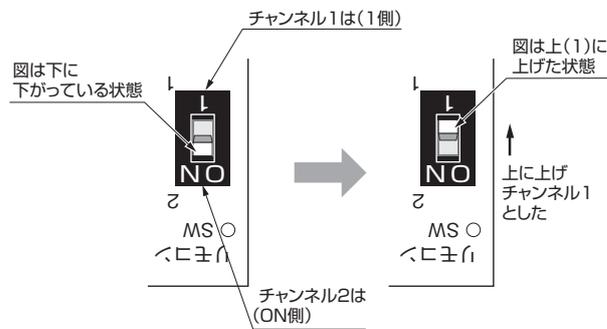
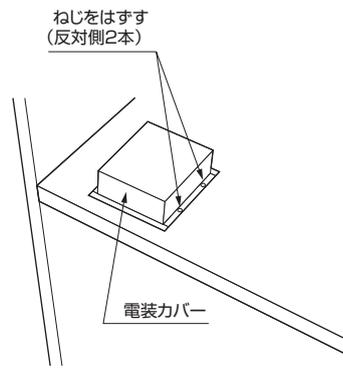
昇降棚を下降させてから元電源（室内ブレーカー）が「OFF」になっていることを確認してください。

①扉をはずします。

「3. 本体の取付け 9」を参照してください。

②電装カバーをはずします。

③制御基板のチャンネルを切替えます。



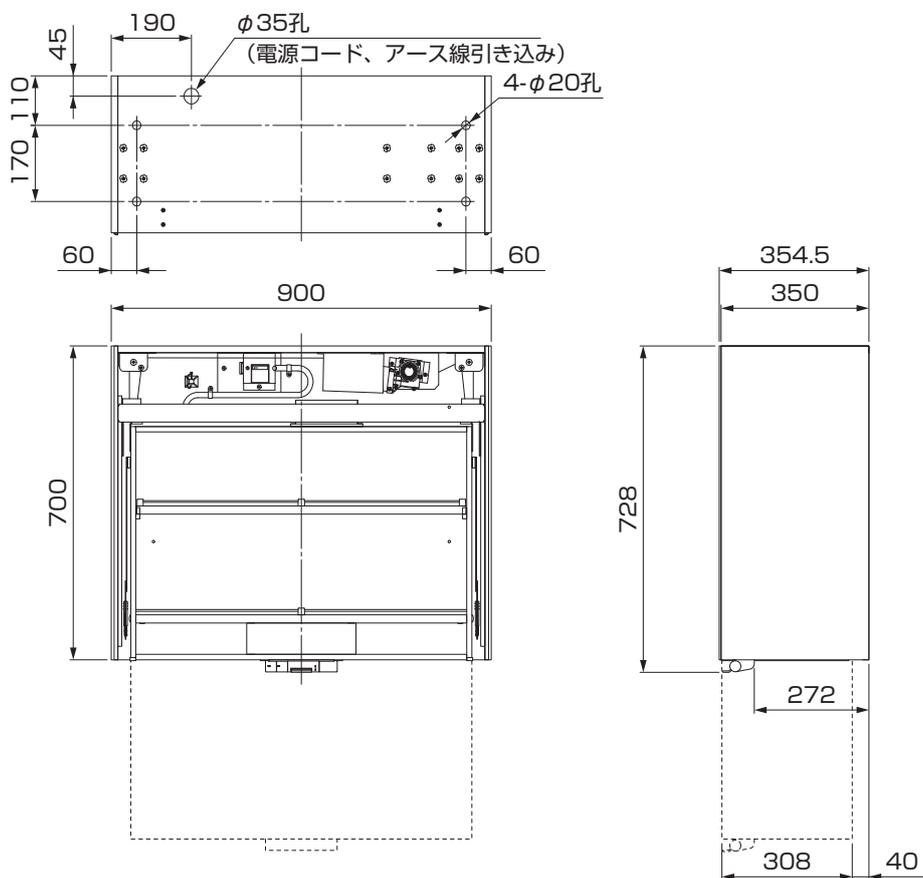
警告

チャンネルの切替えの際は必ず元電源（室内ブレーカー）をOFFにする

安全を確保すると共に制御基板の切替えプログラムがリセットされません。

8. 外形寸法

(単位：mm)



金澤工業株式会社

〒306-0226 茨城県古河市女沼 1663 番地